

## Special Contents

## 自然と人との豊かな共生を目指す「ビオトープ富士」

富士山の麓、静岡県御殿場市にあるオカムラの富士事業所。その敷地内の竹林部分に、2022年9月末、約3,000m<sup>2</sup>のビオトープの整備が完了しました。ビオトープとは、bio（生命）とtopos（場所）というギリシャ語からの造語で、生き物の生息空間の意。自然の保全や復元を目指し、多様な生き物が住み、環境省が提唱する「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現に寄与する空間です。地域固有の自然環境を大切にしながら、人と自然の共生の場として機能させ、環境教育の場、従業員や地域の皆さまの交流の場としても活用していきます。

「ACORN活動」の新たなフィールド  
「ビオトープ富士」を創出

オカムラグループは自然共生と生物多様性に向けたアクション「ACORN（エイコーン）活動」を行っています。私たちの暮らしや企業活動は、自然環境や多くの生き物の営みの連鎖によって支えられているからです。持続可能な社会の実現を目指すオカムラは、環境を守り育てることへの貢献を使命と考えています。今回行われた新たな活動の舞台は、国道394号線に面した富士事業所の敷地内。元々は鬱蒼とした竹林でした。ここをビオトープとして再開発することが、自然にとっても人間にとっても、新たな「場の創造」においても大きな意味を持つと考えました。ビオトープは一般的な公園とは違い、生き物の生息環境を整えることを目的としています。そのため造成のプロである特定非営利活動法人日本ビオトープ協会の方々に指導していただきながら整備を進めました。

地域の生物多様性の保全に貢献し  
多様性のある交流も生まれる場

より豊かな生物多様性の保全に寄与するため、広大なエリアを、水系ゾーン、里地ゾーン、昆虫ゾーン、憩いの森ゾーンと、主に4つのゾーンに分けて整備しました。憩いの森ゾーンでは池や築山を形成するとともにエコスタック（木の枝や刈った草などを積み重ねてつくる生き物たちの居場所）を創成。このゾーンで伐採した竹は、細かく砕いてチップにして園路に敷き詰めました。これによって昆虫がやって来たり、植物の種が入り込んだりしやすくなります。

元々あった樹木の整理も行いましたが、伐る作業だけではなく残せるものはできるだけ残しています。新たに植えるものも、



地域の植生に合った低木や高木を植え、生き物たちが快適に暮らせることを第一に考えました。

ビオトープを生み出すプロセスの中では、人と人とのつながりによる新たな交流の花も咲きました。苗は福祉施設で育てているポット苗を購入。地域みんなの力を合わせて場を創造しています。植樹祭には従業員はもちろん、福祉施設の障がいのある方々、外国人技能実習生などさまざまなプロフィールの人たちが参加しました。伐採した竹を使ったお箸づくりも行い、早速手づくりお箸でお弁当を食べている人の姿も。福祉施設の方々には、施設外就労として引き続きビオトープの維持メンテナンスをお願いしています。

生き物たちの営みも、人の営みも、ここでは一緒に活き活きと輝いています。



## モニタリング調査で生き物たちの命をつなぐ効果があると確認

場を創造するだけでなく、ビオトープの生き物の生息状況や生態系がどのように変化して豊かになっているか、定期的なモニタリング調査による評価が必要です。その結果に基づき、管理手法を見直したり施設の改善策を講じるなど調査とフィードバックを繰り返していきます。

「生物多様性の指標（ものさし）」と言われている野鳥の初回の調査を2022年10月に行い、15種類の野鳥が確認されました。2回目は2023年2月に実施し、渡り鳥のオオカワラヒワが、里地ゾーンのウッドチップが敷き詰められた地面の種などを採食したり、水場で水を飲む光景が見られました。このことから「ビオトープ富士」が渡り鳥の大切な越冬地となっていることが分かりました。また、留鳥のシジュウカラも雄雌が確認され、設置した巣箱で春に繁殖することも期待されます。このような野鳥の調査には、外部パートナー\*にも協力をいただき、オカム

ラの従業員も参加しています。

観察される鳥の種類の多さは環境の多様性を、また数の多さは環境の質のよさを示しているとも言えます。これからも調査を続け、ビオトープの整備を学びながら、さらに生き物たちの命をつなぐ場に進化できるよう維持管理をしていきたいと考えています。

※ 太平電機ECOひいきプロジェクト



## 多くの人々とともに明日へと育てる「場」を大切にしたい

オカムラグループの事業活動は、自然環境からの恵みを受け

て成り立っています。そして同時に、自然環境に対して影響を与えています。オカムラは、自然資源を利用する企業として、その責任を認識することが重要だと考えています。そこで「ACORN活動指針」や「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく取り組みを通じて、人と自然が共生し、「生態系サービス（自然の恵みのこと）」を持続的に享受できる社会の構築に、これからも積極的に貢献していきたいと考えています。



そして富士事業所では「ビオトープ富士」を地域交流にも活用しながら、従業員や周辺の皆さま、協力パートナーとともに明日へと育てていきます。ビオトープ整備によって見通しがよくなり、地域の人々との距離も近づきました。この機会にオカムラの簡単な会社紹介を作成してバス停横のフェンスに掲出し、分かりやすいイラストによる案内板も設置。情報を共有しながら、地域に根差した開かれた場として機能させていきます。



「ACORN」は英語でどんぐりを意味する言葉です。次の種をつなぐために、なくてはならない存在であるどんぐりを活動の象徴として、オカムラはこれからも明日の種を蒔いていきます。



オカムラ  
富士事業所  
環境保全課  
根本 正雄

## 「私たちのビオトープ」という意識に変わりつつあります

幹線道路に面した富士事業所の顔ともいえる場所が鬱蒼とした竹林だということが気になっていました。そのエリアを環境に配慮した取り組みの場として活用できないか考えたのが「ビオトープ富士」整備のきっかけです。この整備により、年々減少している地域固有の動植物が戻ってくることを期待しています。今、さまざまな鳥の声を聞くことができるようになりました。より多くの鳥の棲み処となるよう、見守っています。また、従業員に関心を持ってもらうよう、事業所内ネットワークでビオトープでの出来事を広報しています。最近では自主的に清掃を行う人もいて、「会社でやっているビオトープ」から「自分たちのビオトープ」という意識に変わりつつあるのかもしれませんが。今後は外部の方とコミュニケーションを図る場として、近隣小学校の子どもたちに自然と触れ合う課外授業など企画していきたいと考えています。

外から見たオカムラ富士事業所のイメージも、以前とはだいぶ違うと思います。外部への開放の仕組みを考える必要はありますが、「散策したい」「子どもを遊ばせたい」と思えるような場所にし、誰からも愛される「ビオトープ富士」としてこれからも維持管理に努めていきます。